

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	メルパルク株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区麹町二丁目4番地1 麹町大通りビル13階
工場等の名称	ホテルメルパルク名古屋
工場等の所在地	名古屋市東区葵3-16-16
業種	宿泊業、飲食サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	ホテル・旅館
建築物の所有形態	賃貸しビル等（賃貸ししている建築物）
事業の概要	ホテル、結婚式場、宴会会、レストラン
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月20日 ～ 令和5年10月18日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 管理グループ事務所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-937-3586		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社では省エネの対策に対して、電力・ガス・水などの消費節約を図るべくムダを省く努力を進め、今後は更に積極的に推進していく方針である。

事業所内での省エネに出来る限りあらゆるものにチャレンジして全員で対策を積極的に行い、温室効果ガスの削減に計画通り実施していく。

1. 事業所での省エネの取組

温暖化対策室を中心に対策を率先して行い、全社員に普及するように努力し、更に促進する。また、設備に係る対策は中長期修繕計画を基に建物オーナーに相談をして段階的に実施していく。

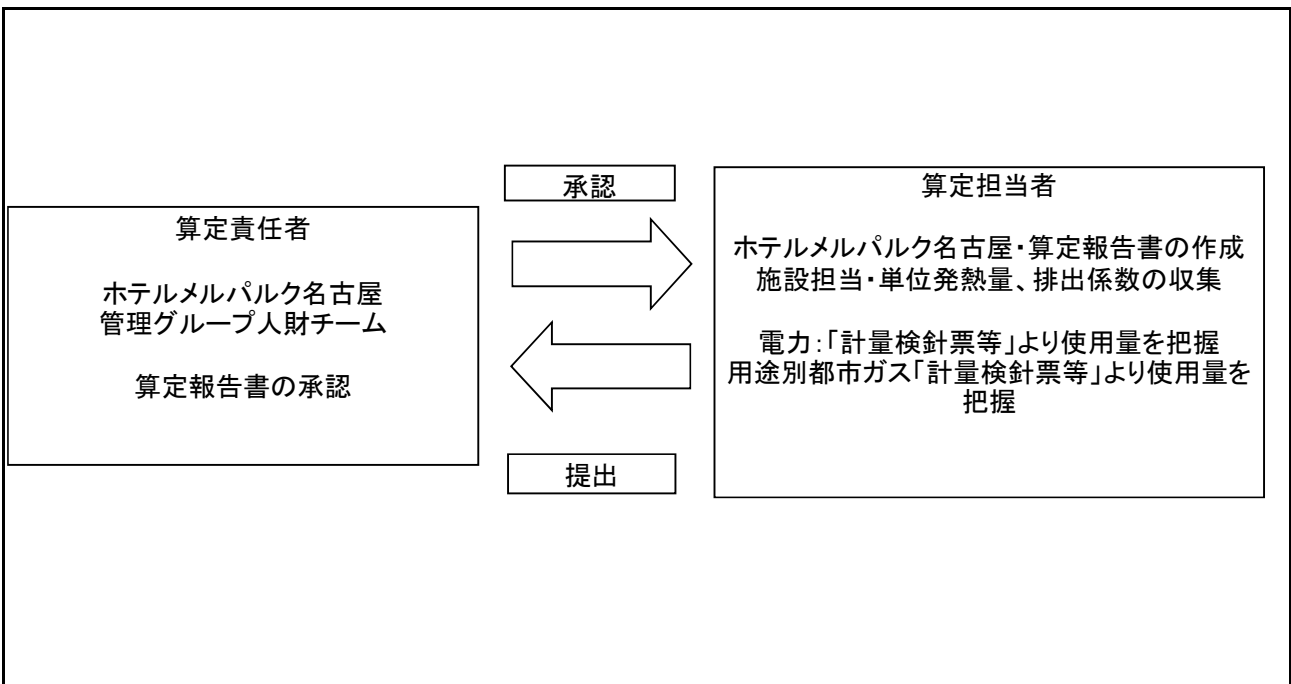
照明ランプ類を消費電力の低い、LED照明器具・LED電球に計画的に交換を実施した。

2. 社員に対する環境意識向上のための啓発活動

2022年度はコロナ禍が回復傾向となり、社員に対する意識向上に努めたが、結果（使用電力見える化等）として、ホテルを利用するお客様の増加で計画目標に到達できなかった。

今後も全社員でムダな電気の消灯等に努め、更なる啓発活動を実践していく。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,286	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	2,286	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	1,815	t-CO ₂	1,813	t-CO ₂	2,286	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0.1	%	▲ 26.0	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

コロナウイルス感染状況が回復傾向となり、お客様利用増加のため、電気・都市ガスの使用量が増加した為、温室効果ガス排出量が増加した。今後運用による削減では今以上の削減は困難な状況となっており、今後の削減は高効率機器への切替等となるが、機器類の更新には建物所有者である日本郵政不動産株式会社との計画、調整が必要なため早期実施が困難な状況である。

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/光熱水使用量等の把握	・光熱水使用量の把握のため、計測、記録、分析 ・使用量の見える化	日々の使用量を取り纏め、使用量の見える化を各部門共有	日々の記録を基に毎月光熱水費使用状況を本社へ報告するとともに、使用量実績を前年対比増減について分析を行った。
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	・設備の運転時間、管理部門の温度（冷房28℃、暖房20℃）、外気導入量の管理 ・中間期等は外気導入を積極的に行い空調機等運転時間の削減に努める（外気冷房）	当日の気象状況を把握し、冷暖房運転の効率化を図る	中間期は外気冷房を積極的に行い、夏季の外気温が高い場合は、冷房効率を考慮し外気導入抑制に努めた。
省エネルギー・省資源の推進/冷暖房	・南向き窓のカーテン締切、日射負荷を削減 ・冷温水ポンプ及び空調機は負荷変動に対応してインバータ制御で変流量化		冷温水設定温度をこまめに行い、無駄のない冷暖房運転を行った。
省エネルギー・省資源の推進/照明	・夜間社員用自動販売機の照明清灯 ・催事に合わせ点灯、不要箇所の消灯 ・白熱系照明を順次LEDに更新	令和6年度までに白熱系照明200灯をLED照明に更新予定	宴会場等利用時間の合点照明の点灯・消灯を行った。白熱系照明48灯をLED照明器具に交換した。
省エネルギー・省資源の推進/その他	・エレベータ、エスカレータの運転管理、催事に合わせ運転、不要箇所の運転停止	当日の催事状況に合わせた運転管理を行う	お客様の利用状況及び催事開催に併せた昇降設備の運転を実施した。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

水資源の有効活用として ・雨水を消毒し中水の活用として、トイレ洗浄水、植栽への散水に活用 ・トイレ洗浄水節約のため、女性用便器の擬音装置活用及び自動手洗い水栓に節水コマを装着し節水に努めた。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

適正要員を配置し、定時退社に努めた。
